

## 達人リコメンドの四国～お城巡り

### 1. 日本100名城

今年のGWは一味違う四国観光。四国4県のたいがいの観光地には足を運んでいます。近年「日本100名城スタンプラリー」の本を購入して、ポチポチ回っていたので、今回のツアーのテーマは、四国お城巡りとします。築城したのが、蜂須賀だの竹中工務店だのと歴史を語る気はありませんが(というより、日本史の知識に欠けるので)周辺の観光と合わせて100名城を語ってみたいと思います。



### 2. 今治城

旅の始まりは、今治から。ここは最もキャッチーな場所で、獣医学部の加計学園、脱走騒ぎの刑務所があって、そんな騒ぎを横目に、しまなみ海道経由で四国入り。来島海峡大橋を展望して、いざ今治城に。(なお、尾道側の向島に潜伏した脱獄囚は、この翌日、広島市内で確保されたようです。)



ここは、日本三大水城の一つで、お堀の水は海水で、取水口があって、のぞき込んだらボラ、フグ、石鯛などが泳いでいます。城門前の石垣には「勘兵衛石」が配置され、天守閣に登ると、来島海峡大橋と瀬戸内海のしまなみが美しく見えます。



今治のグルメと言えば、鉄板で焼く焼き鳥、ざんき、焼き豚玉子飯などが知られていますが、今回のランチは、ざんき。いわゆる鶏のから揚げで、菊間で発見したお持ち帰り専門の「カラット」でカレーピラフと合わせて、美味しくいただきました。



### 3. 松山城

松山のランドマークとして知られるお城。何を今更ですが、東雲からリフトに乗って山上へ。昔は、ロープウェイだけしか無かったのに・・・とか言いながら、空中散歩、天守閣まで進みました。本丸では、坊ちゃん、マドンナさんと記念撮影、お城のゆるキャラよしあき君も一緒です。





愛媛県では、蛇口が2つあって、1つ目をひねれば、お水が出て、もう1つをひねれば、ポンジュースが出てくるなんて都市伝説がありますが、本丸広場の売店には、そんな蛇口が設置されていますので、お見逃しなく。いずれにせよ、松山に来たらポンジュースをお忘れなく。



#### 4. 湯築城

湯築城って知っていますか。道後公園と言えば、そういえば湯釜のある・・・という知識だけでスルーしてきたお城です。地元の人の憩いの場所で、まあ、道後温泉に宿泊して、本館の「坊ちゃん湯」で一息ついて、ハイカラ通りで「タルト」と



「坊ちゃん団子」買って、伊佐爾波(いさにわ)神社に駆け登ったあとの時間調整で訪問する程度と認識していますが、スタンプラリー完成をめざして歩いてみました。



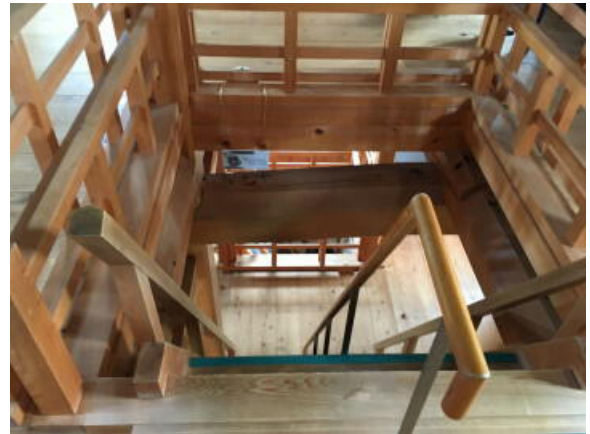
今回は、メルパルク松山に宿泊。本館の賑わいに耐え切れず、椿の湯でゆっくり羽根を伸ばしました。夕食は「鯛めし膳」で鯛の刺身を漬けにして熱々ご飯にのっけていただきます。愛媛の鯛めしと言えば、刺身をのせて食べるものが「宇和島鯛めし」釜飯の如く炊き込むものを「北条鯛めし」と言います。最近のグルメブームで、宇和島鯛めしが脚光を浴びて、松山城のロープウェイ前や、ハイカラ通りにある専門店は、鯛めしを求めて行列ができていました。



## 5. 大洲城



建設業の営業マンとしてお勤めしていた頃、ベースキャンプの高松に次いで訪問したのが大洲。かつて、国民宿舎「臥竜苑」という場所を定宿にしていたのですが、昭和の年号と共に消えてなくなりました。当時、高台から肱川を眺めるだけで、臥竜山荘や大洲城なんて名所旧跡を巡るなんて余裕もなく、日々を無駄に過ごしていたのでしょうか。



そんな、昭和を懐かしんで、大洲城からポコペン横丁、赤煉瓦館などを訪問して、油屋なるお店を発見。暖簾はかかっているけど、メニューが出てない炉端のレストラン。突撃すると、玄関前に庶民的な価格のメニューがあってランチタイム。南予でおなじみ、「さつま」をオーダー。焼き魚のほぐし身に胡瓜とコンニャク入りの冷えた味噌汁を、温かい麦飯にかけていただきます。さつまという名前だけあって、九州方面から伝わってきた冷や汁の一つですが、美味しい郷土料理をいただいて、平成の大洲をエンジョイしました。





## 6. 宇和島城

さて、宇和島。愛媛の終着駅ですが、なんと、松山から高速道路が繋がって想像以上の近さになりました。宇和から三間、宇和島市内を超えて津島まで行けるなんて感動的な8の字ハイウェイです。今回も民家と軒を並べる登城口から、石段を登ります。天守閣に到達、あとは周辺散策です。名物のじゃこ天を買って、闘牛場を探しに行きます。道の駅「きさいや広場」でお買い物、和霊大祭の主役の牛鬼さんをご対面して、宇和島国際ホテルにチェックイン。



お食事は、南予づくしで、鯛めし、そぼろをトッピングした糸こんにゃくのフクメン、フカの酢味噌和えなど。この料理は美味しくて、特に鯛のあら炊きがバツグンで、朝食のじゃこ天も本場の味で最高です。





## 7. 高知城

宇和島から「だるま夕日」が見える宿毛に移動します。だるま夕日とは、沈む夕日が海面に反射してだるまさんの形になる現象で、極寒かつ天気の良い日しか見えないレアもので、道の駅「すくもサニーサイドパーク」には、そんな写真が展示されています。



ふれあいパーク大月で、ブリの押し寿司と焼き鯖寿司、筍の土佐煮を購入、途中、お猿さんが出勤していない大堂公園でいただいて、今回イチ押しの柏島に向かいます。ここは、大阪起点で考えて、四国で最も遠い大月町の果てで、トンネルと新しい橋が完成していなければ、訪問するには相当の勇気と決意が必要な場所です。今回は、柏島に車を置いて周辺散策。海岸から見るマリブルーという言葉が似合う美しい海。ダイビングスポットとして有名でもあり、SNS映えするパワースポットです。水着に着替えて泳いでいる人が居ましたが、まだまだ肌寒いようです。四国本土に戻って、観音岩を展望、竜串からの土佐清水・ジョン万次郎資料館、民宿「いさりび」へと移動です。







昨年は天候不順で、漁師さんがお休みで食べるができなかった「清水鯖」を求めて2年連続で同じ民宿に宿泊。リベンジ成功で、憧れの清水鯖のプリプリのお刺身をいただきました。元来、サバは痛みが早くなかなか生で食べる事ができませんが、やっぱり土佐清水、民宿の目の前にある生け簀・太平洋の恵みに感謝です。あと、追加のカツオのタタキも美味しくいただいて、2年越しのミッション完了です。





翌日は、甫喜ヶ峰公園を訪問するつもりでしたが、雨天中止。その代わりに昨年開館した「高知城歴史資料館」を訪問。傘をさして高知城に登城。天守閣からの展望悪し。







## 8. 高松城(玉藻城)

雨の高知から坂出・五色台へと移動。雨と霧で沈む夕日も見えず、瀬戸大橋の眺望もお預けでしたが、その分、讃岐五色台休暇村名物、バイキングディナーで食育食育。しっかりとお腹に夢を詰め込むことに。一番のお気に入りにはサワラ、瀬戸内の春のスーパースターとして美味しくいただきました。

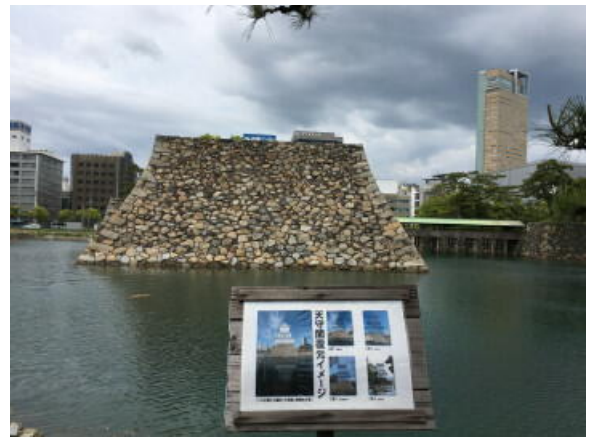


一夜明けて、強風。外の樹々が揺れて、網戸が風の力で勝手に移動します。当然、JR瀬戸大橋線が運転見合わせで、連休後半スタート日(5月3日)は大変だったと思います。クルマ移動の我々は、根香寺で牛鬼さんにご挨拶。札所(四国88ヶ所)で南無大師遍照金剛と唱えて帰路の安全を祈願しました。ガイドブックでは、「鐘撞堂から見る島嶼部分が美しい。」と書いてありましたが、何度来ても(この雰囲気が好きだし、お客さんを案内したり、勤務時間中にさぼったりで少なくとも20回は訪問しています)樹々に阻まれて何も見えなかったのですが、今回は植木屋さんの努力のおかげか、初めて瀬戸内海を展望できて感動です。





さて、高松。サンポートを借景とした高松城に突撃です。かつてのイメージは、高松グランドホテルの裏にある有料の公園としか認識していませんでしたが、場内の清掃が行き届いて、場内の植木の手入れもバツグンでした。ボランティアガイドさんも、民間の手で美しく保っていると教えてくれました。ここは、サンポート、コトデンの高松築港駅前と合わせて、素敵なデートスポットになったのではないのでしょうか。



さて、高松と言えば讃岐うどん。知事もうどん県なんて名乗っていますし、旅の終わりは讃岐の至宝で決まり。営業マン時代に通った、浜街道・イオン福岡町横のあさひで、私は冷ぶっかけ、奥様は釜揚げで、仕上げました。







100名城の旅・四国は7ヶ所のスタンプをゲットして無事終了です。さてさて、次はいずこへ。

平成30年5月12日記(旅は平成30年4月29日～5月3日)

[トップ](#)  
[戻る](#)

---

[達人リコメンドの四国～平成から令和へ](#)